

至誠

2号

2022年3月20日発行

- 会長が理事長、学長と座談会!? 2-3
- 山口芸術短期大学 now! 4
就職状況について
- しょうびレポート 5
会長が自ら取材に行く!!
デザインコンペのご報告
- 頑張っちょるよ、同窓生! 6-7
- 母校への寄贈品のお知らせ 8
寄付のご案内
同窓会役員構成
編集後記

発行

山口芸術短期大学同窓会しょうび

〒754-0032 山口県山口市小郡みらい町一丁目7番1号 山口芸術短期大学内しょうび事務局 TEL 083-972-2880 FAX 083-972-4145

会長が理事長、学長と座談会!?

2021年12月、同窓会としては初めての試みである「理事長・学長・同窓会長の座談会」をさせていただきました。

半世紀以上の歴史を持つ我が母校が変わりゆく時代の中で今から目指すもの等、お話しした模様を少しだけお知らせしたいと思います。



長谷川 今日は理事長はじめ学長が、時代の背景に沿った大学の運営や、大学のカリキュラムのあり方をどのように考えておられるのか、また、同窓会として、大学と連携をとりながらどうすれば学短がより良くなっていくのかなど、お聞きしたいと思います。

僕が入学したとき山口芸術短期大学には、絵画、デザイン、彫刻があり、音楽、保育、家政もありました。卒業して二十年以上が経つんですけど、その歴史の中でいろんな動きがあったと思うんですね。芸術分野が減り、それに代わるものが出てきて、という形で。そこで、学短はこれまでどこの形で運営してきた、今後は、芸術を基盤にどういった方向でこれからのあり方を決めていくのかというお話をさせていただければと思います。

学長 芸術を中心とするところが非常に盛んな時代があったと歴史的には見えています。だんだん女性の社会進出が開かれてきて、それに合わせて大学も職に就きやすい形になっていった、というのが流れですね。もう一つは、最初の頃の生活芸術科にしても、いわゆる芸術家になられた方ももちろんおられるのですが、職を得るということでは簡単でない領域で、四大を出ても簡単に食べていけない。

長谷川 本当にそうでした。僕が入学したころはすごい就職難で、みんな短大、大学に行って、二年後、四年後だったら就職があるかもしれないという状態。あと、女性の中には、今と違って、短大は特に、就職のためということではなくて、社会に出るまで少し寄り道をすることがあった方も、今と全然違って。

理事長 やはり、社会的な背景が大きいですね。開学が昭和四十三年、高度経済成長期後半の生活水準が上がった時期で、そうなると文化的なニーズがでてきますよね。それが音楽であり芸術であり。生活に余力ができて音楽を子どもたちに習わせたい。昔はたくさんありましたよね、オルガン教室とかピアノ教室であるとか。そういう時代に音楽科、生活芸術科の短期大学として開学しました。社会的にも卒業したら絶対に就職しなければというより、やりたいことを学び、文化的なものを身につけて出る、という時代でした。その後、昭和四十九年に幼児教育科を設置したことで職業に直結するよう変わってきました。

長谷川 じゃあ、早い段階で職業にも対応できるようにになったということですね。

理事長 現在の芸術表現学科は、ベースの部分の芸術から、デザイン、ビジネスの要素が今は強く

なっていますが、その基盤となる芸術性はなくなっただけではないです。保育学科の中にもそれは引き継がれており、その保育学科の専攻科をベースに創った山口芸術大学にも豊かな感性や創造性、表現力という要素があります。ただ卒業後に職業に就くという社会的ニーズが非常に強くなり、そのことを意識した教育内容に短期大学も変わってきています。

学長 今までは芸術を基盤とした教育が中心だったけれど、それだけでは今はなかなか。課題を解決する、与えられたテーマをどうこなしていくか、与えられた境界条件のうえでどう仕事をしていくか、自分がやりたいことを自由にするというのは芸術ですけれど、社会に出るといろんな要求があって、それぞれの要件に応じて必要なものを出していく能力が必要になるんですね。課題解決のために、芸術志向とデザイン志向の両面が今はいらないかと思っています。

長谷川 僕が受けたとき、生活芸術科という科目目ってのは大学でもほぼなかったですね。僕はそのころに惹かれてこを受験しているんです。僕はもう本当に自由にやりたい放題、三年間をすごく大事にできた場所だったというのがすごくて、これが今の生活や、自分の芸術活動に生きていくんです。芸術を学ぶというより、なんか芸術って何なのかって言うのを改めて考えさせてもらえた三年間だったというのが、僕の中ですごくあります。

自分は就職を考えて短大に入学したのではないですが、今、学長と理事長のお話で就職にまず直結するのを目指した勉強のあり方や、カリキュラムとか聞くと、僕も親としては自分の子どもを安心して預けられると思います。

学長 芸術の部分っていうのは、まず一生つきあう部分だと僕は思っているんですね。必ずしも職に直結しなくても、違う職を選んだとしても、ビジネスに特化しても音楽とか造形は楽しむことが出来ますよね。保育学科では、一生働ける職場が得られる。芸術表現学科もアートからデザインに移って、職に就きやすい。今でいうWebデザインとか印刷とかに就職するのが多くなっている。音楽の人たちもビジネスを勉強して、ビジネスと音楽で就職できて働けるか。

理事長 社会ニーズの変化は大きいですね。どういう人材を社会が求めているのか、それに対して、二年間なり三年間でつないでいくわけです。いま教育界には大学教育を学生が主体的に学ぶ教育に転換しようという流れがあります。主体的な学び

として課題解決のためにグループワークをやるとか、自分たちが課題を探すと、アクティブ・ラーニングということがしきりに言われています。そういう部分は、本学の、特に生活芸術科はまさに当時から主体的な学びだったですね。だから今の大学に求められていることは、当時と全く別物ではないですね。

長谷川 なるほど。よく「学短、絵画なくなったらしいよ」「彫刻の授業なくなったらしいよ」とか言われるけれども、「モノづくり」とか、そういうものはなくなっているかもしれないけれど、芸術という、根本的な部分、基盤の部分、それはきちんと残っているというのをみんなは分かっているか。

学長 芸術の部分もある程度選択で残すようにして選べるようになってきている。それだけでは今の時代に合わないで、デザイン系のもの、音楽も単純に音楽を演奏して一流のアーティストになるというのではなくて、音楽の要素を使って、例えばデザインと組み合わせることで「マーシャルベース」にWebデザインや映像を作るにしても音楽っていいですね。そういったものが要求されるようになっていて、そういう能力を持っている、あるいは両方持っている、デザインもできて音楽もできる人っていうのは引く手あまたになるわけですね。なかなかそういう方は、逆にいうと他の大学にないわけですよ。

長谷川 僕も、いま聞いてそう思いました。

学長 こころで面白いのは音楽とデザインと造形というものが一緒にあるので、それにビジネスをベースにおいているんですね。就職につながるようなことを考えながら音楽とデザインが近くにあってみんなが「ラボ」でできるんですね。

長谷川 入学してくる生徒さんたちは、今学長が言われたようなことをある程度理解しているのでしょうか、学短は、こうなっていくんだよっていうことを。

学長 そこはやっと宣伝が行き届き始めて、今の芸術表現学科の教育ベースや考え方が伝わってきている。

長谷川 こうして話してみると、やっぱり運営される側の、教授陣なんかも時代の背景に合わせながらいろいろ考えていくっていうのが分るっていいか。

理事長 そういう面で、主体的な学びということに関しては、もともと大学のベースにはあるもので、形としては転換しやすいですね。

学長 例えばPBL（課題解決型学習）は、学

芸だけではなく、芸表もPBLをスタートしているんです。キーワードは、STEM教育といふのがあります。SがScience(科学)、TがTechnology(技術)、EがEngineering(工学、ものづくり)、そしてAがart(芸術)リベラルアーツ、最後はM Mathematic(数学)。今、ミニ版ですが、このSTEM教育に一番近づけているのは芸術表現学科で、カリキュラムに反映しつつあります。そこを高校に伝えるのは結構難しい。皆さんがこれまで持っているイメージがあるので。

長谷川 僕は、造形美術という美術のコースに入ったの、目指したところがよくわからなくて半年くらい何もなかった。その間に他の学生たちが僕よりも絵も、デッサンもどんどんうまくなっていった。表現することがわからなくなったこともあって、大学の中をうろつろして、家政科の先生に「ミシンを教えてもらったりした。芸術家になりたいと思ってこの大学に入学して、一応人にも覚えてもらえようになりながら、活動できているのは、あの二年間、僕は三年間いたんですけど、ここで本当に楽しんだ時間というか、いろんな先生と話し交流しながら、それが今の自分に生きていると思います。

理事長 実は、新しい学園全体の中期計画、「宇宙学園ビジョン2030」を策定し、今年がその初年度なんです。テーマは「至誠」の心の継承と社会変化や多様性への対応」としています。これからの十年はSociety 5.0と言われるように、本当に世の中が百年に一度と言われているほどの大転換期です。これまで培ってきた良き伝統『至誠』の心は継承しながら、社会変化に対して大学の学びをどのように変革していくかという計画を学長中心に作り、今それを推進しています。

一例をあげれば、保育学科は、保育学科で完結という道と、もう一つ四年制の学芸大学の併設で、保育者の専門性の向上のために幼稚園一種免許取得や、小学校の免許の併有が求められる場合は、学芸大学に編入すればその学びができる。新たなIT化が進むSociety 5.0といわれる社会で、芸術表現学科は今までの芸術・美術・音楽だけではなく、新時代にその能力を活かすことができるデザインも学べるようにしています。

学長 デザインって今はもうアナログだった時代からデジタルの時代になっています。でも専門学校と違って、アナログから教えるのがこの特徴です。デザインとデジタルの基礎をちゃんと教えたうえで、デジタルのオペレーションを教えるんです。

長谷川 今はもうデジタルでボタンを押したら作れるっていうのがあるかもしれないけれど、ゼロから一つのものを生み出すってすごく大変なんです。アナログができていてすごく違うっていうので、アナログ授業はぜひずっと続けていってほしいです。

学長 だから、基礎デザインやデッサン関係の授業が複数あるんです。これをちゃんとやるのが重要で、そのうえでオペレーションがある。

長谷川 そうですね。それが直に役に立つ。
理事長 保育学科もそうですね。これまでずっと造形とか音楽の授業が他の養成校と比べてうちは生きていて、根っこの部分で大学の感性、創造性、そして表現力の重視、これはずっと続いています。そのことは学芸大学にも建学の精神『至誠』とともに引き継がれています。社会で求められる人材の新しい要素とこれまでの芸術性の育成をどのように教育の中に入れていくか、そのことを今学長を中心に先生方で取り組んでいただいています。

学長 まさに二年間、四年間で感性を磨く。感性があるから一流のデザイナーになれるじゃないかと磨いていく。この期間が重要なんです。本当は二年間って短いんですが、それなりに自分であとは長谷川さんも経験されたように一番楽しい青春の時代でもあって。

長谷川 短大の場合って、本当にもうギュって詰め込められるので、その中から自分の楽しみを見つけてなきやいけないわけじゃないですか。結構頭使うんですね。すごく大変だったけども、本当に僕が芸短に来て良かったなって言うのはありますね。時間を無駄にできずに濃縮してやった。

僕は、卒業生として、芸短が大好きなので、これからの芸短も見ていきたいというのはあります。僕は結局、同窓会に十年くらい関わっているんですが、今感じているのは、同窓会に入っているだけで意外と学校のことを知らないというか、卒業後、学校離れをしていったりとか、そこがちよっと不満で、自分が卒業した大学をもっと誇らしく思い、何か一緒にやりたいとか、これから目指す大学づくりに同窓会とどのように関わっていかばよいか、どう関われば芸短がよりよくなっていくのかっていうのがお話しできればと思っています。

理事長 四年制大学と短期大学、それぞれのメリットがあります。保育学科に関しては専門性の向上ということで上位資格が必要な場合は、併設の学芸大学に編入して取得できる一方で、実際の地域ニーズとしては、短大卒業生も欲しいというのがある。家庭の状況でも、四年間、二年間と、いろ

いろな要素が影響してくる。保育者養成の部分は、そうだったそれぞれのニーズに対応できる環境が整っています。芸術表現学科は、芸術的な表現からスタートして、現在の社会ニーズに応えるデザインやビジネスの要素も入れて、二社会から求められる資質、能力を、二年間、あるいは専攻科も含めて三年間で身につける教育をすすめています。先ほどSTEM教育ということも学長が言われましたが、元々はSTEM教育という理系のものづくりの考え方に、そこをさえ、いわゆるArtが入って来た。現代はあらゆる職業分野で創造性やデザイン的なものが求められます。それをしっかりと主体的な学びによって身につけて送り出せば、評価されることがあると考えています。また、これからの変化の激しい社会において、大学で身につけたことがずっと役に立つかと言うとそうではない。だから、結局学び方・学ぶ姿勢を身につけて卒業後も学び続けなければいけない。そういうことなんだということも二年なり三年で持つてくれることが大事だと思うんですね。

長谷川 理事長がよく言われるように学校と同窓会しようびが両輪で一緒にまわっていくようにしていかなければならないと思っています。芸短出身で、絵画とか音楽で有名な子がいっぱいいるんですよ。僕ら同窓会がこの活躍している人々たちを掘り起こしていきたい。僕らは僕らがいた時の時代に沿った教育を受けて今がある人たちがいて、その僕らが芸短卒業を発信しながら大学へアプローチし、逆に、現在、芸短は時代に合わせた変化を続けていて大変だけれど、僕らが習った芸術の基盤はちゃんとあって、それに沿って学校運営をしていると発信したい。これが僕の一つの役割だと思っています。現在、全国的にも大学が減っている。だから、これからは大学の名前をずっと守り続けていってほしい。僕も同窓生も大学をもっと応援したい。同窓会ももっと大学にアプローチする、そのために自分が山口芸術短期大学卒業生だとアプローチしながらこれからも頑張っていきたいと思っています。

理事長 卒業生が活躍していただけることは一番ありがたいことですね。学びというのは、二年ないし三年の学びの時点で最終形ではないわけですね。大学はやはり学びの基礎作りなので、社会に出てどう活躍していただけるか、活躍する方をできるだけ輩出したいと思っています。先輩の頑張っている姿は、在学生にも、またこれから本学を目指すという人にとっても大変大きな影響があります。

長谷川 僕らの時は、結構、九州、四国、千葉、岐阜と、いろいろな県からきていました。あと、自分たちは、芸短しか知らないから、学芸、どんな勉強をしているんだろう、編入の話もありますよ。四大がすぐそこにあるっていうのは、すごくいい条件というか。

学長 せっかくなので二つの大学があるので、連携しながら。

長谷川 僕も、大学の会長さんといっしょに一緒にできればと思っています。それでは、時間も、もう三十分くらい押ししまつたので、ここで終わりたいと思います。本日は、ありがとうございました。
理事長 今後とも、どうぞよろしくお祈りします。濃厚なお話や懐かしい事も含め約一時間の座談会でした。

普段ではなかなか話せない質問やお話など、大学を運営していく中で苦労や未来を担う考え方や非常に実りある時間を過ごすさせていただきました。私たちもこれに見習いこれからの同窓会の運営など課題を与えられたそんな気持ちでした。

二木寛夫理事長、三池秀敏学長 この度は、協力ありがとうございました。



左から、長谷川貴志会長、三池秀敏学長、二木寛夫理事長

山口芸術短期大学 now!

【就職状況について】

山口芸術短期大学の強みの一つとして、就職率の高さが挙げられる。ここ最近では、幼児教育コース100%、介護福祉コース100%、芸術表現学科93.1%と、いずれも高い就職率を示している。(ホームページ参照)

コロナ禍で就職活動も厳しい風向きの中だが、学生や先生方の意識の高さや頑張りが、この結果に繋がっているのだらう。特に2021年度は、8月頃に爆発的な

コロナ感染が起こり、夏のインターンは半分が中止、残りは秋へ延期となり、8月からの面接は全て中止、またはオンラインへと変わり、幼児教育コースの実習も延期となった。就職活動の動きが8月以降止まってしまったぞうだ。

しかし、企業の皆様のご協力もあり、インターンを受けるはずだった芸術表現学科の生徒全員が、別日程で無事に受けることができた。幼児教育コースは今年度も既に就職率100%を達成。介護福祉コースも、100%に近い数字になっているぞうだ。コロナ禍で多くの困難があっただろうが、学生たちはそれを感じさせないほどの結果を出している。

就職に重きを置いた授業としては、学生たちの就活サポートとなる「キャリアデザイン」がある。1年生後期に選択可能とな

るこの授業では「働くことの意味」や「社会人マナー」「社会人基礎力」を学んでいく。具体的な内容をひとつ紹介すると、15回授業のうちの1回を使って、既に内定を決めた2年生から就活に関する体験談を聞く、というものがある。中には成功談だけではなく失敗談もあるが、実体験を交えての話は、受講している1年生にとっては大きな糧となるぞうだ。近年、企業の求める能力は、自分の気持ちをきちんと言葉で伝えることのできる「コミュニケーション能力」、指示待ち人間ではなく自分から動ける人間である「主体性」、異なった環境や立場の人と互いに助け合い同じ目標に向かって任務を遂行できる「協調性」の3点が挙げられる。これらの能力を身に付けられるよ

う、学生たちは日々励んでいる。また、この度記事を書くにあたって、本学の特命教授、キャリア支援センター長の赤瀬洋司先生にインタビューをさせていただいた。赤瀬先生曰く、短期大学の在学期間は2年と短く、1年生の終わりには働くことを考えないといけない。就職に関しては早めに動くことが大切だ、と語る。また、自分が自信と誇りをもって取り組む「仕事」はいいが、やらされている「作業」というのはとても辛い、とも語る。本学の学生は「こういうことを学びたい!」という志を持ち、芸術に対してそれぞれ熱い情熱を抱いている。その学生たちがこれから歩いていく「仕事」が「作業」になってしまわないよう、

きちんと自分の求めるものを思い、表現できる仕事をしてほしい。そのためにも就職に関しては早めに行動し、自分の望むところへ行行ってほしい、と赤瀬先生は熱く語って下さった。話を伺う際、言葉の端々から、学生をサポートしよう、という強い意思がひしひしと伝わってきた。このような学生に対する手厚いサポートも就職率の高さに繋がっているのだらう。



キャリア支援センター センター長
赤瀬洋司 特命教授

学生のうごき

近年の入学者、卒業生数の統計

令和元年度	男	女	合計
入学者数	6	128	134
卒業者数	5	135	140
進学者数	0	6	6
就職者数	5	121	126

※令和2年5月1日現在

令和2年度	男	女	合計
入学者数	7	115	122
卒業者数	4	116	120
進学者数	1	4	5
就職者数	2	102	104

※令和3年5月現在

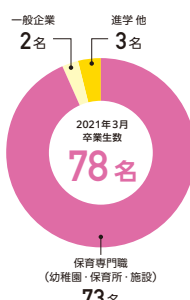
令和3年度	男	女	合計
入学者数	6	128	134
卒業者数	6	115	121
進学者数	0	2	2
就職者数	4	100	104

※令和4年3月現在

就職実績・進路状況

保育学科 幼児教育コース
(2021年3月卒業生)

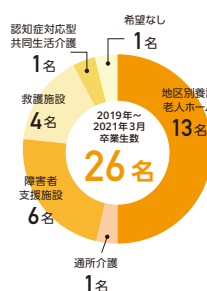
100%



保育学科 介護福祉コース
(2019年~2021年3月卒業生)

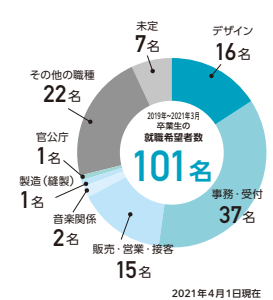
100%

介護専門職就職希望者の就職率



芸術表現学科
(2019年~2021年3月卒業生)

93.1%



2021年4月1日現在

しょうびレポート

「会長が自ら取材に行く!!」

【取材協力】
福祉複合施設めくもり山口 放課後等デイサービス めくもり学習室
山口県山口市小郡上郷森下4188-2



左：川手艶子さん、右：内山久美子さん

今回は私しょうび会長、長谷川が山口市小郡にある「めくもり学習室」へ大先輩である川手艶子さん（音楽科12期）内山久美子さん（生活芸術科11期）の取材に行きました。

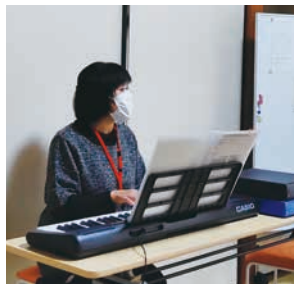
「めくもり学習塾」は芸術から非常に近い場所であり放課後等デイサービスという「障害のあるお子様の放課後の居場所」として開設される福祉サービスでお二人は職員として「アートタイム」という時間を担当されているようです。通常は学童保育のように放課後に宿題や勉強などを教えたがりと一緒に遊んだり機能している施設ですが、その中で「アートを用的」面白い授業をされていました。

川手さんは現役演奏者でコンサート企画や音楽教室の主宰、内山さんは湯田温泉で店舗経営をしながらも湯田温泉を中心とするイベント企画・事業等、お二人とも多彩に活躍されています。ちなみに、長年しょうびを引っ張ってこられた役員の大先輩でもあります。

何故そんなお二人が…。

約一年前に施設の職員からアートを置いて子どもたちに楽しい時間を提供できないですか？とお話を頂いたのがきっかけ。大

学生生活から現在までの経験を通して「アートの在り方」について引いてきたよう、何かできかないかな？と二人で何度も話していたようです。そのお話をいただいた時



にお二人は「私たちが目指しているのはこういうカタチかも？」ということとでチャレンジし始めた授業が「アートタイム」というプログラム。

川手さんの演奏から始まる「アートタイム」は始業ベルのように響きながら皆が集まり、一緒に歌って踊ってを取り込みながら絶妙に音感やリズムを教えている感じ。音楽を通して皆と一緒に楽しめる空間を作り、次は内山さんが古紙やペットボトルや再生品を使って図画工作のような遊びの授業。音の出る楽器を作ってみたり、季節に合わせた工作をしてみたりと、子どもたちが楽しめるような時間づくりをされていました。

『本来なら宿題や勉強の場。でも私たちが少しの時間を楽しい時間に変えることで子どもたちもまた、色んな経験や楽しい時間を過ごせる』とおっしゃっていました。『障害を持つ子どもたちで大変な面もあるが、何よりも音楽や美術、図画工作を通じて子ども

たちと色んな関わりを持つことができ嬉しい』と生き生きと話してくれました。

週に一回、約一時間。宿題や勉強に追われる子供たちの息抜きに取り入れたプログラムは見学していた私も引き込まれるように見入っていました。

分野は違えど目指す芸術心が同じお二人。『まだまだ私たちも手探りで子どもたちに色んな可能性を教える事が喜びであり勉強です。大学で学び卒業し、色んな職を重ねながらもその時の経験があるから今がある』とお話されていました。

久しぶりの再会で、いろいろとお話ができ私自身も貴重な取材体験をさせていただきました。活躍？というよりも自身がいつまでも模索しながら違った角度で経験を生かしている姿にすごく刺激を受け、またいろいろと考えさせられる時間でもありました。

今回取材をさせていただきました川手さん内山さん、また、お忙しい時間にも関わらずご協力してくれた施設の皆様、ありがとうございました。

デザインコンペの報告

第2回デザインコンペの選定へ行ってきました。

一昨年2020年から山口芸術短期大学が全国デザインコンペを開始、クリエイターの発掘・育成への新たな取り組みを始めました。

入賞作品は県内様々な場所で展示され、多くの人々に高覧いただき、地域のデザイン文化振興の一助となっております。

今後この活動を継続するべく、第2回となる「デザインコンペ2021」の公募を開始しました。

そして第二回目から同窓会しょうびも協賛することになり、中高生を対象とした部門で「しょうび賞」という賞を選抜することになりました。

事前に厳選なる審査を通過した作品の中から一点、これからの夢や希望の励みとなれ、この思いを込めてください。

近年、このような大学の事業や支援などにも力を入れていく同窓会としては、未来を担う関わりが大学と連携し活動できることに大変うれしく感じます。

毎年開催され、一般の部門もありますので同窓生の皆様も是非参加してみてくださいいかがでしょうか？

主催者詳細はコチラ
〒754-0032
山口市小郡みらい町二丁目7番1号
山口学芸大学 山口芸術短期大学「デザインスタジオ・みらい」デザインコンペ」
担当：企画連携課
e-mail: kikakukenkei@yamaguchi-u.ac.jp



しょうびを代表して、長谷川会長がしょうび賞の選考を行いました



山口芸術短期大学同窓会しょうび賞選考の様子

頑張っちよるよ、 同窓生！

講師系 YouTuber

音楽学科40期 三輪 あずささん



【YouTube】
azusan/ 三輪あずさ
【Twitter】
azusan/ 三輪あずさ

4歳からヤマハ音楽教室でエレクトーンや作曲を学び、自然とエレクトーン講師を目指すようになりました。地元山口市の芸短を卒業後、ヤマハ音楽教育システム講師のキャリアをスタートしました。現在は山口市内の楽器店で、3歳から高校生まで幅広くピアノやエレクトーンを教えています。私の大きなターニングポイントは、25歳の時に出場したヤマハエレクトーンコンクール2013(国際大会)で第3位を受賞したことです。これがかっかけとなり、企業イベントや祝賀会でのゲスト演奏のご依頼を多くいただくようになりました。翌年には、目標だったエレクトーン演奏グレード2級を取得しました。コンクールでの受賞とグレード取得を記念して開催した初のソロリサイタルでは、300名以上のお客様

様にお越しいただき成功を収めました。

全国の講師さんや生徒さん向けに、発表会などの選曲の手助けになればと2012年に始めたYouTubeは、チャンネル登録者数23,000人にまで成長しました。月刊エレクトーンでは「講師系 YouTuber」として度々紹介されています。現役システム講師らしくワンポイント解説を付けたり、一人によるアンサンブル演奏、人気アーティストのメドレーなど、参考動画としても役立つ動画を多く配信しています。特にエレクトーンの機能について解説している「ワンポイント解説」では、エレクトーンを触ったことがない方や初心者の方も興味津々の方です。「エレクトーンはこんな機能があるんだ」と知ってもらえる良い機会になっています。私のYouTubeチャンネル登録者数がグンと伸びるきっかけになった「ワンポイント解説付キルパン三世」80、ぜひ聴いてみてくださいね！

最近では、YouTubeの耳コピ動画をご覧になった視聴者さんからの採譜のご依頼がとて増えました。採譜の仕事は元々興味があつた分野なので、絶対音感を生かした正確な譜面を制作していきたいと思ひます。新しいことに挑戦するのは勇気が必要ですが、やりがいも感じますし、新しい観点で物事を見られるようになりたいです。これからも講師という立場にとらわれず、演奏家・採譜者、様々な分野にチャレンジしていきます！



子どもが主役を大切に

保育学科36期 久富 和也さん

『現在の事業内容』



山口県内の幼稚園・保育園などで園児を対象に体育指導を行う事業の運営をしています。他にも小学生や親子を対象とした体育指導も行います。

『幼児体育を始めたきっかけ』

子どもに携わる仕事をしたいと考えていたとき、幼児体育の会社に就職したことがきっかけです。そこで、体育指導を受けている子どもたちのキラキラとした笑顔を見て素晴らしい仕事だと感銘を受けました。そして次第に自分の信念である「子どもが主体」を元にした指導をしていきたいと思うようになっていきました。

『芸短で学び、活かす』

学生時代、子どものことについて様々なことを学んできました。そして、現場で実際に子どもと触れ合っていく中で、言葉がけの重要性に気づきました。体育指導をしていく中で言葉のかけ方を変えていくだけで、子どもの活動が大きく変わっていくのです。このように学校で学んできたこ



とが、経験を

積むことでより深まり、やがては自分の考え方へと構築されていくのではないかと思います。私は悩んだ時や行き詰ったときは初心に帰って、子どもとのかかわり方を見つめなおしています。

『これからの自分』

2021年4月に「スポーツクラブAcos」として子ども向けの体育教室を立ち上げ、現在は派遣講師として県内の幼稚園・保育園様にご利用いただいています。これからも私の体育指導を多くの方に知っていただき、ゆくゆくは自身のスタジオでたくさんの子どもに指導していきたいです。また体育教室だけでなく、多方面から子どもがより良く成長するための教室を展開していきたいと考えています。



新しい教室、新しい挑戦

芸術表現学科47期 神木 綾乃さん

山口芸術短期大学卒業後、ピアノ講師として活動を始め、現在、山口市内にて母と、同じく山口芸術短期大学卒業の夫の3人で「すてっぴあびあの教室」を開講しています。

現在は3歳から大人まで、約80名の生徒さんと日々音楽を学んでいます！2021年の5月に教室を新築し、より良い環境で生徒さん達とピアノに触れることができるようになりました。部活や仕事が遅くなってもピアノに触れ合えるよう24時間演奏可能な防音室。小さな生徒さんでも親しんで貰えるよう楽しくポップな雰囲気重視した部屋。2021年11月に新しいグランドピアノが入り、2台のグランドピアノが並ぶ部屋。3つそれぞれ特徴のある部屋で、レッスンをしていますー！
現在はコロナ禍で色々と、制限される



思い出のアルバム

生活芸術科27期 新川 正基さん

現在、山口県内のフォトスタジオでカメラマン（フォトグラファー）として、撮影はもちろんのこと、営業や編集作業も担いながらいろいろと動き回っています。

幼い頃から5教科の授業より、絵を描いたり、図画工作で物を制作する芸術系の授業が得意だったこともあり、芸術表現の道に進みたいと思い山口芸術短期大学を選びました。芸術表現と一言で言っても、色んな分野がある事を芸短の様々な授業を通して学びました。学生時代の思い出としては、当時の生活芸術科デザインコースは、まだアナログが大半で、沢山の道具をもって教室を行き来していたことです。

授業以外にも、軽音楽部やバスケットボール部など、興味がある事にも全力で時間を費やしていたので、各授業の提出期限に遅れがちで・・・先生方にはご迷惑をおかけしたと思います。その時のことは、今でも夢に見ることがあります。同窓会しようびの役員である長谷川さん



田長さんとも、共通の趣味である軽音楽部と一緒に音楽活動をしていました。授業が終わったからの部活動の時間が待ち遠しくて、活動が始まるとそれに夢中になりすぎ、外が



暗くなったことにも気付かずに楽しんでいました。そのくらい音楽に明け暮れ、楽しかった毎日が今でも印象に残っています。一生の趣味を、この時見つけた気がします。

また、学生時代には卒業アルバム委員の委員長をしていました。その経験が、今のフォトスタジオで写真の勉強をするきっかけとなりました。今では、現役の芸短生の日常をカメラに収め、その写真が卒業アルバムとして残っていくことに感慨深いものを感じています。写真を職業として、お客様のニーズに答えるのは当たり前のことです。常に最新の表現は、何なのかを追求する貪欲な気持ちを持ち、いろんな可能性に挑戦して行きたいと思っています。今後は、動く写真にも力を注いで行こうと思っています。



事がありますが、芸短在学中に音楽療法士の資格を取ったこともあり、少しでも音楽を活かした地域貢献ができればと思います。子供たちと一緒に年に2度、老人ホームへの訪問コンサートも行っていました。また、発表会やホームコンサート等、生徒同士の繋がりが、演奏をする機会・聴く機会を大切にしながら音楽教育を行っています。一刻も早くコロナが落ち着いて、様々な場所へ心置きなく演奏しに行ける日常に戻って欲しいと切に願っています。
芸短を卒業してすぐに講師として自立したので、不安なことや分からない事が多々ありましたが、芸短の先生方や先輩方、同級生にレッスンのアドバイスを沢山頂きました。卒業後も頼れる場所があることに心から感謝しています。今後は、指導内容の充実や指導力の向上はもちろん、リトミックの資格取得や、知育を取り入れた幼児教育の勉強にも積極的にチャレンジし、小さなお子さんでも楽しく音楽に触れ合えるレッスンをすることを目指します。

母校への寄贈品のお知らせ

前号でお知らせしましたとおり、今年度も母校への活動支援の一環として、同窓会費の一部を備品寄贈費として使用させていただきました。同窓生の皆様にはご理解の程よろしくお願いいたします。

今年度は業務用掃除機五台を寄贈させていただきました。母校の意見も参考にし、役員会で厳選いたしました。新校舎となり広くなった母校ですが、綺麗な状態を維持するためには日々のお手入れも必要となります。現役の学生の皆さんには、日々掃除の時間に綺麗にしていたいておりますので、少しでも使いやすい道具を使用していただきたく、今回の寄贈となりました。快適な空間の中で安心して学習していただき、輝かしい学生生活と自己実現を目指しながら、皆様に活用していただければ幸いです。



新しくなったA棟の各階と体育館に1台ずつ、計5台を寄贈。強力な吸引力と長いコードで広い教室内も隅々まで綺麗にできます。

寄付のご案内

同窓会「しょうび」では、「同窓会運営」「同窓生支援」「同窓会情報発信」を定め、母校に貢献する母校支援活動をさらに展開して行くこととしております。

今年も引き続き会員の皆様のご厚情を賜りたく、大変恐縮でございますが、1口(1,000円)以上ご寄付いただければ幸いに存じます。

今後とも会員の皆様方の絶大なご支援・ご協力を頂きながら、同窓会発展のため努力して参る所存でありますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

げます。

※会報誌折込別紙参照

【寄付金の使用目的】

同窓会全体の活動を積極的に展開することが同窓会の発展、同窓会会員への支援の向上に繋がるものでありますので、ご寄付の使用目的については、

「同窓会活動、同窓会運営全般に充て、更なる会員支援の向上、同窓会運営の拡充へ有効に活用」とさせていただきます。

皆様のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

… 同窓会住所 …

〒754-0032 山口県山口市小郡みらい町一丁目7番1号
山口芸術短期大学内
TEL：083-972-2880 FAX：083-972-4145
同窓会しょうび公式ホームページ <http://shoubi-yca.com/>
同窓会しょうび問い合わせ先 shoubi@yamaguchi-jca.ac.jp
山口芸術短期大学公式ホームページ <http://www.yamaguchi-jca.ac.jp/>

同窓会役員構成

名誉会長	三池 秀敏 (山口芸術短期大学学長)
会長	長谷川 貴志 (生活芸術科 27期)
副会長	田良 浩樹 (幼児教育科 21期)
	竹内 美幸 (音楽学科 42期)
書記	久富 和也 (保育学科 36期)
顧問	内山久美子 (生活芸術科 11期)
幹事	若崎 智子 (生活芸術科 9期)
	杉本 紀子 (音楽科 12期)
	大野 恵子 (幼児教育科 6期)
	上田 智子 (幼児教育科 21期)
	中尾 優太 (保育学科 32期)
	田中 好美 (保育学科 34期)
	服部 憲尚 (音楽学科 41期)
	森重久美子 (音楽学科 42期)
	中西 朱里 (デザインアート学科 42期)
	木村 祥子 (芸術表現学科 44期)
	藤本 愛梨 (芸術表現学科 44期)
	藤原 知明 (芸術表現学科 46期)
	岡本 優香 (芸術表現学科 47期)
	神木 綾乃 (芸術表現学科 47期)
会計監査	川手 艶子 (音楽科 12期)
	船木 一頭 (山口芸術短期大学事務部事務課長)
事務局長	吉野 信朗 (山口芸術短期大学学生部学生課長)
会計	狩山美重子 (山口芸術短期大学学生部)
中国支部	金築 敏久 (生活芸術科 9期)
九州支部	外磯宏二郎 (芸術表現学科 44期)
四国支部	川村 高弘 (音楽学科 32期)

編集後記

山口芸術短期大学同窓会「しょうび」の活動として昨年からのスタートさせた会報誌「至誠」を、昨年に続き発行する事ができました。ご多忙の中、ご協力頂きました先生方をはじめ、卒業生や在学生の皆さまには、役員並びに幹事一同、心より感謝申し上げます。

コロナ禍において、多くの人が思うような活動が出来ない中で、先輩たちは社会に出て、尚、真摯に学び、挑戦を続けておられます。そんな報告を、この誌面を通して、これから新しいスタートを切る皆さんにも紹介できる事が、とても嬉しく誇らしく感じております。

今後、毎年「至誠」を発行していきますので、ご支援・ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。